

## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地(※4)
1	やながせ 柳ヶ瀬トンネル	未指定 (建造物)	長浜－敦賀間の県境にまたがるトンネル。明治17年の完成当時、国内最長の1,352m。日本人技術者のみで建設され、難工事のため、完成までに4年の歳月を要した。このトンネルの完成は鉄道敷設技術の大きな進歩となった。	滋賀県 長浜市 福井県 敦賀市
2	ことね 小刀根トンネル	市指定有形	長浜－敦賀間にある明治14年竣工の現存する日本最古の鉄道トンネル。日本で最も量産されたD51形蒸気機関車はこのトンネルのサイズに合わせて作られたといわれている。日本人技術者のみによる工事では京都～大津間に次いで2番目。	福井県 敦賀市
3	めがねばし 眼鏡橋	未指定 (建造物)	明治14年竣工。市街地を流れる水路を列車が渡るために建設された。現在の市街地に線路が引かれていたことや、当時の鉄道建築の技術を知る遺産である。	福井県 敦賀市
4	かしまがり 檜曲トンネル	国登録有形	敦賀－今庄間にあり明治26年竣工。内壁、ポータルがすべてレンガ積みという特別な意匠が施されている。北陸線が北へ延伸される際に必要となったトンネルであり、現在は歩道として活用されている。	福井県 敦賀市
5	はばらちくてい 葉原築堤	未指定 (建造物)	敦賀－今庄間にある旧北陸線の線路跡。緩やかなカーブが特徴的であり、蒸気機関車運行当時の風景や旧北陸線の線路跡を知ることができる遺産である。現在は生活道路として活用されている。	福井県 敦賀市
6	はばら 葉原トンネル	国登録有形	敦賀－今庄間にあり明治29年竣工。南北のポータルに逋信大臣(元首相)の黒田清隆が揮毫した扁額「與國咸休」「永世無窮」が掲げられていたトンネル。北陸線が北へ延伸される際に必要となったトンネルであり、現在は生活道路として活用されている。	福井県 敦賀市
7	ふながや 鮒ヶ谷トンネル	国登録有形	敦賀－今庄間にあり明治28年頃竣工。トンネルの施行者は鉄道・トンネル建設の実績がなかった地元業者であったが、この施行により資金と技術を手に入れたといわれる。北陸線が北へ延伸される際に必要となったトンネルであり、現在は生活道路として活用されている。	福井県 敦賀市
8	そろじだに 曾路地谷トンネル	国登録有形	敦賀－今庄間にあり明治28年頃竣工。トンネル背面に砂防ダムが設けられているトンネル。北陸線が北へ延伸される際に必要となったトンネルであり、現在は生活道路として活用されている。	福井県 敦賀市

9	すいづ けいかん 杉津の景観	未指定 (文化的景観)	敦賀ー今庄間にあった杉津駅から見える景色は、「北陸線屈指の車窓風景」とアナウンスされたほどの景勝地で、かつて大正天皇がお召列車で通過する際にもその絶景に見惚れたといわれている。現在、杉津駅跡は北陸自動車道のパーキングエリアとなっており、当時から変わらぬ絶景は、恋人の聖地として、たくさんの観光客が訪れる観光・写真撮影スポットとなっている。	福井県 敦賀市
10	だいいちかんのんじ 第一観音寺トンネル	国登録有形	敦賀ー今庄間にあり明治27年竣工。地元の材料を用いて低単価で施工されたトンネル。北陸線が北へ延伸される際に必要となったトンネルであり、現在は生活道路として活用されている。	福井県 敦賀市
11	だいにかんのんじ 第二観音寺トンネル	国登録有形	敦賀ー今庄間にあり明治28年頃竣工。建設当時の照明やコンセント等が遺されているトンネル。北陸線が北へ延伸される際に必要となったトンネルであり、現在は生活道路として活用されている。	福井県 敦賀市
12	まがりだに 曲谷トンネル	国登録有形	敦賀ー今庄間にあり明治28年頃竣工。石やレンガの積み方が丁寧かつ習作的で、官給品の煉瓦が使われているトンネル。北陸線が北へ延伸される際に必要となったトンネルであり、現在は生活道路として活用されている。	福井県 敦賀市
13	あしたに 芦谷トンネル	国登録有形	敦賀ー今庄間にあり明治27年竣工。官給の厳選された材料によりできたトンネル。北陸線が北へ延伸される際に必要となったトンネルであり、現在は生活道路として活用されている。	福井県 敦賀市
14	いらだに 伊良谷トンネル	国登録有形	敦賀ー今庄間にあり明治28年頃竣工。檜曲・葉原・山中トンネルと同じ意匠に整えられたトンネル。現在は生活道路として活用されており、南口からは、芦谷・曲谷トンネルが連続する様子を望むことができる。	福井県 敦賀市
15	やまなか 山中トンネル	国登録有形	敦賀ー今庄間にあり明治29年に竣工。旧北陸線(敦賀ー今庄間)で最長となるトンネル。岩盤の堅さや漏水の影響を受けた難工事の末、3年かけて造られた。現在は生活道路として活用されており、毎年開催されるウォーキング大会では、多くの観光客がこの長くて真っ直ぐなトンネルを歩き、蒸気機関車運行当時の様子を体感している。	福井県 敦賀市 南越前町
16	いど 行き止まりトンネル	未指定 (建造物)	山中スイッチバックの折り返し線の延伸トンネルであり、輸送量の多い車両が待避できるように掘られたトンネル。	福井県 南越前町
17	やまなかしんごうじょあと 山中信号所跡	未指定 (遺跡)	敦賀ー今庄間に現存する、唯一のスイッチバック跡である。25/1000という単線の急勾配線路を列車が往来できるように、列車の折り返し線路と待避線路を併せ持っていた。	福井県 南越前町

18	やまなか 山中ロックシェッド	国登録有形	敦賀ー今庄間にあり昭和28年につくられた国内最初期のプレストレストコンクリート造の落石覆工である。峠越えをする蒸気機関車や線路を落石から守った遺構である。	福井県 南越前町
19	おおざりえきあと 大桐駅跡	未指定 (遺跡)	プラットフォーム跡が残る駅跡で、元々はスイッチバック式の大桐信号所であったが、地元住民の要望により、停車場に昇格した駅である。現在、地元区民によって設置されたD51形の動輪が展示されている。	福井県 南越前町
20	ゆのお 湯尾トンネル	国登録有形	今庄駅以北にあり明治28年頃竣工。旧北陸線トンネル群の中では最北に位置しているトンネルであり、敦賀ー今庄間で最南に位置する極曲トンネルと同様の仕様に揃えるため、内壁が全て煉瓦造りである。現在は生活道路として活用されており、地元小中学生の通学路としても毎日利用されている。	福井県 南越前町
21	やきさば やきさば 焼鯖と焼鯖そうめん	未指定 (生活文化)	日本海側との交易が盛んであったことを示すものとして、焼鯖がある。農家へ嫁いだ娘のもとへ「五月見舞い」として届けられた。その焼鯖とそうめんを炊き合わせて作られる郷土料理が焼鯖そうめんである。	滋賀県 長浜市
22	はま 浜ちりめん	未指定 (有形民俗)	水が豊富な長浜で精練される絹織物(ちりめん)はその品質の良さで知られ、明治期の長浜の経済を支え、鉄道誘致の原動力となった。	滋賀県 長浜市
23	なかのごうえきあと 中ノ郷駅跡	未指定 (遺跡)	旧北陸線中ノ郷駅の跡。柳ヶ瀬越えのため、補機を付け替えるため、すべての車両が停車し、賑わったが、北陸線の付け替えにより、廃駅となった。	滋賀県 長浜市
24	でい けい ごうじょうきき かんしゃ D51形793号蒸気機関車	未指定 (美術工芸品)	昭和17年製造。北陸線をはじめ、東北・東海道・中央の各線を、昭和45年まで運行。屋外に保存されていたが、平成15年に北陸電化記念館の開館にあわせて同館内に展示された。	滋賀県 長浜市
25	きゅうながはまえきしゃ 旧長浜駅舎	県指定有形 鉄道記念物	現存する日本最古の駅舎。敦賀への基点駅として、また長浜ー大津間の鉄道連絡船の接続駅として、明治15年に建築された2階建ての洋風駅舎で鉄道創業時の状況を今に伝えている。現在は鉄道資料館として公開されている。	滋賀県 長浜市
26	へんがく ばんせいえいらい 扁額「萬世永頼」	未指定 (美術工芸品)	旧北陸線柳ヶ瀬トンネル東口に掲げられていた石額。伊藤博文が揮毫し、この鉄道が世のために働いてくれることを、いつまでも長く頼りにするという意味。鉄道敷設にかける明治政府の意気込みを示している。	滋賀県 長浜市
27	へんがく えいせいむきゅう 扁額「永世無窮」	未指定 (美術工芸品)	旧北陸線葉原トンネルの北口にあった石額。終わることなく、鉄路が役立つことを願うという意味。鉄道敷設にかける明治政府の意気込みを示している。	滋賀県 長浜市

28	へんがく よこくかんきゆう 扁額「與國咸休」	未指定 (美術工芸品)	旧北陸線葉原トンネル南口にあった石額。黒田清隆が揮毫し、同盟国がことごとく盛んになることを願うという意味。鉄道敷設にける明治政府の意気込みを示している。	滋賀県 長浜市
29	へんがく こうかうじ 扁額「功和于時」	未指定 (美術工芸品)	旧北陸線山中トンネルの南口にあった石額。黒田清隆が揮毫し、事業の完成は時代の要請にあっていう意味。鉄道敷設にける明治政府の意気込みを示している。	滋賀県 長浜市
30	へんがく とくすいこうえい 扁額「徳垂後裔」	未指定 (美術工芸品)	旧北陸線山中トンネルの北口にあった石額。黒田清隆が揮毫し、この鉄道を完成させた徳は子々孫々まで残るという意味。鉄道敷設にける明治政府の意気込みを示している。	滋賀県 長浜市
31	きゅうながはまえき ごうぶんきき 旧長浜駅29号分岐器 ぶ ポイント部	県指定有形 鉄道記念物	明治 13 年に長浜－敦賀間の鉄道建設のため、英国キャンメル社の製品を輸入し、鉄道局神戸工場で部品を製作、組み立てて敷設された。現存する日本最古のポイント部であり、主要な鉄道部品が外国製であった時代を語る遺産。	滋賀県 長浜市
32	けいいうんかん 慶雲館	国指定名勝	明治 20 年、明治天皇の京都市幸啓の帰路、鉄道連絡船から鉄道へ乗り換える間の立ち寄り処として、長浜港と長浜駅の間に建設した迎賓館。豪商浅見又蔵が私財を投じたもので、命名は伊藤博文と伝えられる。庭園は近代日本庭園の先覚者と呼ばれた七代目小川治兵衛の作庭で、国の名勝となっている。明治の長浜の繁栄を示す文化財であり、現在は盆梅展等が開催され、観光客で賑わいを見せている。	滋賀県 長浜市
33	くろかべ かん 黒壁ガラス館	国登録有形	第百三十銀行長浜支店の建物として、明治 33 年に建造された。壁が黒色だったため、黒壁銀行の愛称で親しまれ、商店が急増し鉄道のまちとして栄えた長浜の経済を支えた建造物である。現在はこの黒壁ガラス館を中心に、ガラスショップ、郷土物産展、カフェ、レストラン、工房・体験教室など 30 店舗が並び、黒壁スクエアと呼ばれる界隈が形成され、年間約 200 万人の観光客が訪れる滋賀県有数の人気観光スポットとなっている。	滋賀県 長浜市
34	きのもとしゆく 木之本宿	未指定 (伝統的建造物群)	地藏院の門前町として栄え、北国街道と北国脇往還が交わる宿場町で、旅人と木之本のお地藏さんの参拝客で賑わった。JR 西日本が運行する「SL 北びわこ号」の終着駅があり、蒸気機関車と所縁のあるまちとして、現在も観光客でにぎわいを見せている。	滋賀県 長浜市
35	めいじ とお 明治ステーション通り	未指定 (文化的景観)	旧長浜駅舎、慶雲館、舟板塀、ガス灯を模した街路灯があり、鉄道のまちとして栄えた明治の長浜の面影を色濃く残す通り。	滋賀県 長浜市
36	たいざし 鯛鮓	未指定 (生活文化)	敦賀駅にて蒸気機関車の補機の付け外しの時間を利用して販売された。敦賀湾近海で獲れた小鯛を利用した押し寿司で、今でも人気の駅弁である。	福井県 敦賀市

37	いまじょう 今庄そば	未指定 (生活文化)	今庄では、古くからそばの栽培が盛んであった。昭和初期、今庄駅のホームで鉄道職員や乗客が峠越えの準備時間を利用して今庄そばを食べたことで、「立ち食いそば」の文化が全国に広まったとされる。	福井県 南越前町
38	いまじょうえききゅうすいとう きゅうたんだい 今庄駅給水塔・給炭台	未指定 (建造物)	今庄駅構内に現存している遺構であり、今庄―敦賀間の峠越え前後に必要な石炭や水の補給に利用されていた。給水塔と給炭台が隣接して遺されているのは珍しく、現在では撮影スポットとなっている。	福井県 南越前町
39	いまじょうしゆく 今庄宿	未指定 (伝統的建造物群)	江戸時代の今庄は、旅人が京や江戸と北陸を行き来する際に必ず通る場所であったため、北陸の玄関口、宿場町として栄え、明治以降は鉄道交通の要所、基地としても栄えた。現在、宿場町・鉄道の町として栄えた今庄の当時のまちなみを体感できるイベントが毎年開催されており、多くの来訪者で賑わいを見せている。	福井県 南越前町
40	きゅうにゆーよく 旧 紐育スタンダード せきゆがいしやそうこ 石油会社倉庫	国登録有形	敦賀港が明治 32 年に国際港に指定され、アメリカからの石油の直輸入を開始した。その貯蔵庫。明治 38 年竣工。現在は鉄道ジオラマやカフェ等に活用されている。	福井県 敦賀市
41	きゅうおおわだぎんこうほんてんほんかん 旧大和田銀行本店本館	国指定 重要文化財	敦賀港の国際港への転身に貢献した大和田荘七により建設された。この銀行設立により、敦賀港の中小零細商人らが救われ、敦賀港は開港外貿易港、外国貿易港に指定された。現在は敦賀市立博物館として公開されている。	福井県 敦賀市
42	けいゆおうあれんらく シベリア経由欧亜連絡 きつぷ 切符	未指定 (歴史資料)	明治 45 年に運行開始となった欧亜国際連絡列車の切符。この切符一綴りで、東京から敦賀、ウラジオストクを経由してベルリンまで行くことができた。個人蔵。敦賀鉄道資料館にて複製を展示しており、本切符の背景にある敦賀の鉄道と港の歴史を学ぶことができる。	福井県 敦賀市
43	きゅうつるがみなとえきせんろ 旧敦賀港駅線路	未指定 (建造物)	敦賀駅と港を結ぶ線路の跡。明治 15 年の鉄道開業当初から港までの鉄路が敷かれており、敦賀駅の移転、港線の変遷を経て現在の線路跡となる。かつて旅客・貨物列車が走っていたが、貨物量の減少により、現在は廃線となった。	福井県 敦賀市
44	きゅうつるがみなとえき ごや 旧敦賀港駅ランプ小屋	市指定有形	明治 15 年に建てられ、列車の灯火に使用されるカンテラの燃料を保管する油庫。旧長浜駅舎と並び現存する最古の鉄道建築のひとつであり、庫内ではランプや燃料の保管状況が再現展示されている。	福井県 敦賀市
45	つるがこう けいかん 敦賀港の景観	未指定 (文化的景観)	古来大陸との玄関口・日本海側海上交通の拠点として栄えた港で、明治以降は大陸に向かう国際貨客船の行き来で賑わった。大正 4 年に竣工した金ヶ崎岸壁には税関や敦賀港駅舎があったが、現在再現建物の建設が進められている。	福井県 敦賀市

- (※1) 文化財の名称には振り仮名を付けること。
- (※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形、市史跡、未指定（建造物）、等）。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。
- (※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。
- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。